

総括研究報告書

1. 研究開発課題名：精神科病院の入院処遇における医療水準の向上システムに関する研究
2. 研究開発代表者： 山之内 芳雄（国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター）
3. 研究開発の成果

精神科入院医療のプロセスを中心とした中身についての全般的なデータを、現場の負担を最大限排した形で簡便に収集し、入院医療における様々な評価指標を定め国際的な比較も視野に置いたベンチマーキングを提供する、PECO(Psychiatric Electronic Clinical Observation) システムの運用により、各精神科病院における統一した質の評価を行い、病院間処遇を平準化し医療水準の向上を図ることを目的とした研究である。医療 IT の普及と進歩に伴い、電子カルテやレセコンから日常の業務での入力内容がそのままデータ収集することは可能であり、これを集計しエビデンスに基づいて選定した医療指標を参加施設に提示することを目標としている。

今年度は、まず PECO システムの中身となる精神科入院医療の質評価指標の選定を行った。その際、海外での精神医療指標のレビュー、過去のわが国の研究における精神医療の質に関する知見、患者家族や人権擁護の立場からの意見を取りまとめ、精神科病院における入院処遇の質を総合的に評価しうる 23 の指標の選定を行った。

次に、PECO システムの外形の構築を行い、パイロット運用をした。病院は各々異なる会社の電子カルテを使用しているため、各電子カルテ会社に対して、上記ベータソフトが構築したサーバにデータを提供できるよう、プログラム作成いただいた。入札による外注契約に基づき、(株)ベータソフトに委託しデータ集積および利用に関するコンピュータ情報システムを構築した。合計 9 種類の電子カルテ会社が対応プログラムを作成した（ベータソフト、ナイスシステム、CSI、KHI、京セラ丸善、ライブシステムズ、国立精神・神経医療研究センター病院、あさかホスピタル、島根県立こころの医療センター）。パイロット運用においては、全国自治体病院協議会、日本精神科看護協会から文書による広報活動を行い、上記電子カルテ会社からも広報活動を行った結果、35 病院から参加申し込みを得、このうち準備が整った 20 病院からデータの提供を受けた。

このデータをもとに、重症度による隔離・拘束の実態を「入院時の GAF 得点」「抗精神病薬処方量」と「隔離・拘束の有無」との関連等から把握を試みたが、パイロット運用によるデータ入力の不完全性が課題となり、入力の徹底に関して今後の検討事項となった。また、国際比較として、シンガポール IMH と項目の選定と具体的方法につき協議した。共通した指標として、拘束者比率、入退院時の GAF の変化、入院中の自殺事故、予期せぬ再入院率の比較を行うこととした。

また、政府機関も含めたサイバーセキュリティの事案が発生し、本研究開発課題におけるシステムの本格的な運用とさらなる普及において、技術的に緊急に解消すべき課題が生じた。PECO システムが機密性の高い医療情報を個票単位で収集することから、それに対応するため、個人が特定されないために ID の暗号化を行うよう電子カルテ対応、医療機関において情報漏えいが行らないような利用規則の設定と順守、ならびにそれを担保する暗号化・秘匿化された情報機器の使用、収集され集計されない機密性の高い情報を扱いうる事務局でのネットワークセキュリティの強化を行った。